

石油は中核事業より盤石に

6月に丸紅エネルギーの代表取締役社長に就任した本郷孝博氏。石油需要の減少や脱炭素化の加速を背景に、石油業界が変革期の入り口に立つなかでの登板となる。国内はもとより海外での経験も豊富な同氏には、これまでの経歴や今後の事業の方向性について話を聞いた。

なかで、トレーダーとしてリスクに立ち向かいながら会社の成長と永続性を追求した経験は、現在でも生きています。

た2年の間に東日本大震災が起きました。石油製品の社会的インフラとしての重要性和安定供給の社会的使命を痛感するとともに、被災しながらも使命を全うしようと奮闘した現場の方々と、それを支

えるべく業界一丸となり取り組んだ経験から石油業界の変化に応じた商材の提案など、特約店や需要家といった顧客の期待を最大限に活用することも追求します。

直営SSを運営する事業会社の競争力強化にも引き続き注力します。とくにフリートは事業性や、将来の脱炭素社会でも水素ステーションとしてのネットワーク価値が期待できることから重点的に強化します。

本郷 孝博（ほんこう・たかひろ）氏＝1959年生まれ。1982年横浜国立大学経済学部卒。同年丸紅入社。1989年MIECO。2003年丸紅石油貿易部商流開発課長、2008年サハリン開発部長。2010年丸紅エネルギー取締役社長補佐常務執行役員。2012年丸紅・エネルギー第一部門長補佐兼産業エネルギー部長、2015年九州支社長。2018年丸紅エネルギー取締役専務執行役員、2021年代表取締役社長。

営SSで再生可能エネルギー由来の電力への切り替えを始めています。——特約店へのメッセージ

地域の欠かせないインフラとして日々燃料供給に尽力いただいている特約店のみならず、敬意を表し、この場を借りて御礼申し上げます。

社会的インフラとしてのSSは業態を環境にあわせて変化させながら進化し、その重要性は変わりません。石油事業はコア事業であり、全社一丸となり特約店のみならずの期待に応え続けるべく全力を尽くしていきます。

社長 長場 新登

——これまでの経歴について

29歳から米国に駐在し、石油・天然ガスのトレーディング会社「MIECO」（ミエコ）に出向しました。米国人主体のチームの

石油・ガスの資源開発では、ロシアの「サハリン1」の生産開始に立ち会いました。素早い判断が求められるトレードとくらべて、中長期的な視野で物事をみる世界で考えの幅が広がりました。

2010年度から丸

丸紅エネルギー 本郷 孝博氏



フリートを重点強化 将来の水素ST網へ

に伝え続けるべく取り組みます。顧客とのコミュニケーションを密

——カーボンニュートラル関連の取り組みについて

クリーンな電気や水素といった次世代燃料はそれぞれの特徴を生かしながら徐々に普及するものの、相応の間がかかると考えています。いまからアンテナを張り、知見を深めていきます。GHG（温室効果ガス）排出量抑制への取組みでは、まずは直

新規事業では「モビリティ」「地方創生」「海外事業」「水素」といった切り口で検討しており、丸紅やベンチャー企業などと幅広く意見交換をしています。新たな事業に挑む社内文化や環境整備、人材開発をより進めることで、事業開発力を強化します。

——カーボンニュートラル関連の取り組みについて

体制を準備しなければなりません。水素では丸紅が上流（海外）、丸紅エネルギーは国内の中流から下流を担うという期待を持っています。まずは水素ステーションの候補地調査などを含めて検討を進めていきます。

一日でも早く新型コロナウイルス禍が収束して、みなさまと気兼ねなく直接お会いできる日を祈念しています。